花壇づくりのヒント１２か月

６月　切り戻しと挿し芽

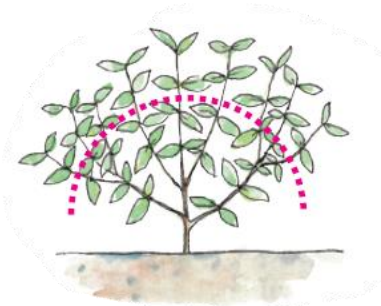
６ 月は気温もあがり、草花がぐんぐん大きく育つ季節です。春や初夏から冬前までの長い間楽しめる草花は、梅雨や夏の時期に株の内側が蒸れて生育不良になったり、長く伸びすぎて倒れ、だらしない姿になる場合があります。対策として、梅雨前の『切り戻し』が効果的です。切り戻しで切った穂先を使って『挿し芽』にも挑戦できます。

『切り戻し』の主な効果

① 株の大きさ・樹形を整える
② 不要な枝を減らし、新芽・実・花の生長を促す
③ 風通しをよくして病害虫を予防する

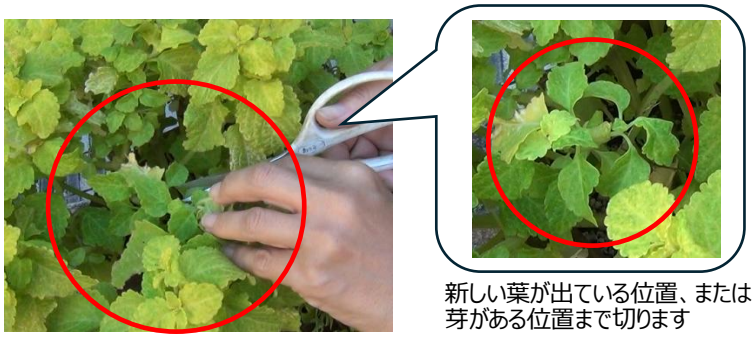
1.　切り戻しの方法

・伸びた枝や茎の１/２～1/３程度を切ります。
・切り戻しの適期は、梅雨前または夏の終わり頃で、真夏の暑い時期は芽が伸びないので避けます。



【切り戻し位置イメージ】

・新しい芽を出させたい葉の上で切るようにします。



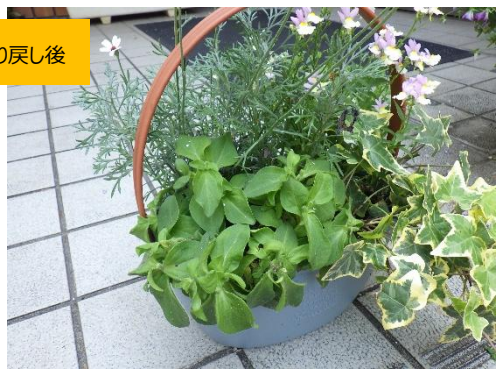
新しい葉が出ている位置、または
芽がある位置まで切ります

・切り戻した後に追肥※をします。

株元から少し離れた位置に１株
３粒程度を目安に追肥します

※「追肥」については「花壇づくりのヒント 12 か月」
１月分も参照ください

【ペチュニアの切り戻し例】



『挿し芽』とは

切り取った草花の穂先（挿し穂）を挿し床に挿し、不定根を発根させ株を増やすこと。
栄養繁殖（植物の一部を切り取って株を増やすこと）の手法のひとつ。
※種から苗を育て増やすことは種子繁殖という。

2.　挿し芽の方法

・挿し床を作ります。

水はけがよく、肥料分がほとんどない土※をポットや穴の開いたトレイに用意し、しっかり湿らせます。

※赤玉土（小粒）、バーミキュライト、挿し芽専用の培養土など

ポットの縁から土の表面まで２㎝程度スペースを空ける。（ウォータースペースの確保）

・挿し穂を作ります。

切り戻した穂先（3～4 節ぐらい）の上２節ぐらいの葉を残し、下の葉は外します

残した葉が大きい時は、葉を半分程度にカットし、水の蒸散を防ぎます

土に挿すまで時間がある時は、花びんやバケツに入れ、切り口から水を吸わせておきます

・挿し床（土）に挿し穂を挿します。

割りばしなどでポットの中央に、挿し穂の長さの１/2～1/3 程度の深さの穴をあけます

挿し穂の下の方の葉を外した節が埋まるように穂を挿します

まわりの土を、指や割りばしで寄せて穴を埋めます

土と挿し穂の間の隙間がなくなるよう、しっかり水をやります
（倒れやすい挿し穂の場合は、ジョウロのハス口を上向きにすると
やさしく水がかかります）

【その後の管理】

- 発根するまでの１週間は、日陰に置きます。
- その後は、朝からお昼ごろまで日が当たる場所に置きます。
  （雨粒の当たらない軒下や室内が理想）
- ３週間程で発根するので、肥料を与えます。
  （N･P･K の割合が同じ緩効性の固形肥料を株に当たらないようにポットの隅に１粒程度）

★次回７月は『アジサイの育て方』をご紹介します。

※資料は個人でのご活用に留めていただけますよう、よろしくお願いします。